

# 作文コンクール 特別賞

(奈良県知事賞)

## 自分事で広がる視野

三郷町立三郷中学校 川嶋 夕陽

戦後 75 年間ずっと続く、我が国の領土である北方四島のロシアによる不法占拠。あるいは故郷を追われた島民達の悲劇の下、ロシア入植者が日本の国土を故郷と呼ぶ異常な状態。日本国民の自国内移動に対してパスポートやビザを要求するロシア政府。北方領土問題とは、こうした人権、経済、外交・・・あらゆる方面の異常を生み続ける大問題なのです。

そんな北方領土問題を初めて知った小学生の私。でも他人事でした。しかし昨年、故郷を追われた元島民の心の叫びや返還に向けた先人たちの血のにじむような努力を本で知り、初めてこの問題は私たちの問題なのだと考えるようになりました。すると私の身に不思議な事が起こります。これまで聞いたことないと思っていた北方領土問題に関するニュースは、自分事だと認識した途端、次々と私の耳に飛び込んでくるようになったのです。そしてニュースは私に問いかけます。「どう思う?。」

去年だと、7月のロシア憲法改正による領土割譲禁止の明記、ロシア議会が日ロ国境交渉も例外ではないと明言したニュース。今年なら、4月のサーフィンロシア代表の国後島合宿、6月の北方領土地域でのロシア軍事演習、7月のロシア首相の択捉島視察。この1年、北方領土問題解決に逆行するニュースが続きました。ニュースに問いかけられる度に私は失望し、重い気持ちになりました。

ある日、これらのニュースに落ち込んでいた私に父が言いました。「もし、ひいきのチームが連続で点を取られ負けそうになった時、真のファンならどうする?がっかりして黙り込むかな?むしろそんな時こそ真価が問われるよね。」と。ここが踏ん張り時だと背中を押された私はもう一度、落ち込む原因となったニュースに目を向けました。よく見ると文末には、ロシア駐日大使を呼び強く抗議したとありました。そして他のニュースにも同じく「抗議した」の文字が見えます。ニュースに再び問いかけます。「どう思う?。」「日本政府はずっと戦い続けていたんだ。私も、私のできることをしよう。」

私は昨年来、友人に北方領土の話をしては、あまり興味のなさそうな態度を取られています。しかし今回、「抗議した」を発見した話を伝え、力を貸してほしいと頼むと、以前断られていた署名をしてもいいとの返事がもらえたのです。また、「私たちの北方領土」のポスターを描きました。下手ですが、一人でも多くの人に知ってもらえるように心を込めて、虹色の四島とエトピリカを絵に描きました。そしてまた領土問題解決のヒントを私なりに探しました。そこでロシアと他国の国境問題を調べていると、2004年の中ロ国境協定締結のニュースに出会いました。記事には当時、両国対立ムードのまっただ中にもかかわらず、首脳同士の直接対話で電撃的に政治決着したとあります。そして当時のロシア首脳はプーチン大統領。ニュースは問いかけます。「どう思う?。」「今の逆境の中でも解決の可能性は十分にありそう。実際に中国では解決したし、プーチン大統領はそんな中でも政治決着ができる相手なのだから。」

前向きな気持ちで臨めば見えてくる希望。自分事と思わないと聞こえないニュース。この一年で私は、気持ち次第で物事の見え方が大きく変わる事を学びました。北方領土問題が他人事だった頃、それは政治家や政府が解決すべき問題でしたが、自分事の今は私たちの想いで解決に導くべき問題に見えます。多くの人の想いは政治家の動機、政府の運動の根拠になり、その想いが大きいほど北方領土返還への追い風となります。私は一人でも多くの人に知ってもらって想いを共有し、この追い風を強くしたいです。私一人の力は微力たるものですが、それでも私は学び、考え、伝えます。これからも自分事と捉え、前向きな心で行動を続けていこうと思います。